

アオオサムシ *Carabus insulicola* オサムシ科



体長：22～33mm

見られる時期

5～10月



成虫♂

特徴

体色には変化があるが、強い金属光沢のある緑色の個体が多く見られる。後バネが退化していて飛ぶことができない。



食べもの

成虫、幼虫ともに夜間に活動し、地面を歩きまわってミミズなどをつかまえて食べる。



見られる場所

林

2003年8月4日 さいたま市桜区下大久保

林や草はらの地表で生活する。成虫は土の中やくち木の中などで冬越しする。

地域変異



アオオサムシは、本州の関東、中部以北に分布しますが、金緑色、赤銅色、黄銅色、紫褐色など地域によって体色がちがいます。

キンナガゴミムシ *Pterostichus planicollis* オサムシ科



体長：11mm

見られる時期
4～11月



見られる場所
草はら

2003年9月23日 上尾市平方
湿った草はらの地表で生活する。



特徴

体は緑色がかった赤銅色でつやがある。
昼間は石の下などにかくれている。

食べもの

成虫、幼虫ともに夜間に活動し、チョウやガの幼虫などをつかまえる。

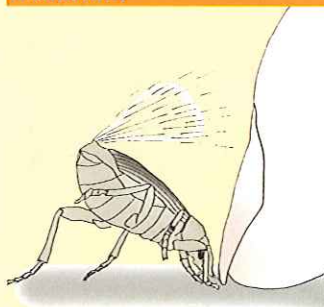
よく似た種類



オオキンナガゴミムシ

少し体の大きなオオキンナガゴミムシは、キンナガゴミムシに比べて荒川では数が少ない。

●防御物質



オサムシ・ゴミムシ類は、鳥やカエルなどの天敵から攻撃を受けたときに、腹から防御物質を噴射して身を守ります。

セアカヒラタゴミムシ *Dolichus halensis* オサムシ科



体長：19mm

見られる時期

4～10月



特徴

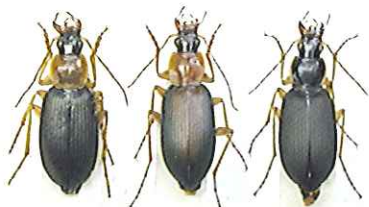
体の色には変化があるが、頭が黒色、胸が赤褐色、前バネが黒色で赤褐色の紋がある個体が多く見られる。昼間は石の下などにかくれている。

見られる場所

草はら

2003年9月23日 川島町出丸中郷

草はらや畑の地表で生活する。



体の色にちがいがあがる。

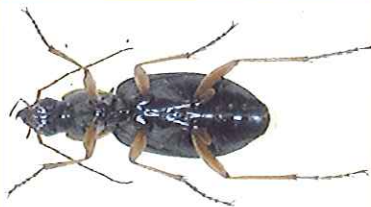
食べもの

成虫、幼虫ともに夜間に活動し、チョウ・ガ類の幼虫などをつかまえる。



ゴミムシ類のなかでは、荒川で最もよく見られる種のひとつだよ。

●足が発達



セアカヒラタゴミムシの腹側

後バネが退化していて飛ぶことができないオサムシ・ゴミムシ類は、足が発達しています。ミミズやチョウ・ガ類の幼虫などのにおいを触角で探知すると、すばやく動いてつかまえます。

アオゴミムシ *Chlaenius pallipes* オサムシ科



体長：14mm

見られる時期

4~10月



成虫

特徴

体は頭と胸が緑銅色で、前パネは緑色で金色の毛が生えている。



頭と胸にはつやがある。

よく似た種類



オオアトボシアオゴミムシ

少し体の大きなオオアトボシアオゴミムシは胸が金緑色で、前パネの後方に黄色のコンマ形の斑紋があります。湿った草はらや畑などの地表で生活します。



2003年8月30日 吹上町小谷

見られる場所

草はら

湿った草はらの地表で生活する。

食べもの

成虫、幼虫ともに夜間に活動し、他の昆虫をつかまえる。

環境指標

体の一部に緑色の金属光沢があるのが特徴のアオゴミムシ類は、ほとんどの種が湿地で生活しています。そのため、環境変化の影響を特に受けやすいことから、環境評価に役立つといわれています。

オオヒラタシテムシ *Eusilpha japonica* シテムシ科



体長：18～23mm

見られる時期

4～10月



成虫

特徴

体は平たく、青黒色。夜行性だが昼間に活動していることも多く、よく見かける。



幼虫

食べもの

成虫、幼虫ともにミミズなどの動物の死体やキノコなどをえさとしている。



見られる場所

草はら

2003年8月23日 北本市石戸宿

林や草はらの地表で生活する。

●そうじ屋



シテムシ類は、動物の死体やふんを食べ、土にもどす役目を果たしています。さまざまな生きものがくらす豊かな森林では多くの種類のシテムシ類が見られますが、草はらや都市化した場所ではオオヒラタシテムシだけが見られます。

コクワガタ *Macrodorcas rectus* クワガタムシ科



体長：22～53mm

見られる時期
5～9月



成虫♂



見られる場所

林

2003年8月25日 吹上町小谷

クヌギ、ヤナギ類の生える林で生活する。

特徴

体は黒色で、オスには大アゴがある。成虫は夜間に活動し、街灯などのあかりに集まる習性がある。

●くち木



クワガタムシ類の幼虫は、木材がキノコやカビのはたらきで腐って変化したくち木を食べます。がたいくち木の中で生活していれば、外敵が入ってくることも少なく、天候や温度の変化にもあまり影響を受けません。



成虫♀



木の穴に隠れている成虫♂

食べもの

成虫はクヌギやヤナギ類などから出る樹液に集まる。幼虫はくち木を食べて育つ。卵から成虫になるまでに2年以上かかる。

ノコギリクワガタ *Prosopocoilus inclinatus* クワガタムシ科



体長：23~74mm

見られる時期

7~9月



成虫の

特徴

体は黒褐色で、オスには大アゴがある。大アゴは、大型の個体ではわん曲して立派だが、小型の個体では小さくまっすぐ。成虫は夜間に活動し、街灯などのあかりに集まる習性がある。



大アゴの短い成虫の



交尾



見られる場所

林

2003年8月23日 北本市石戸宿

クヌギ、ヤナギ類の生える林で生活する。

食べもの

成虫はクヌギやヤナギ類などから出る樹液に集まる。幼虫はくち木を食べて育つ。

●樹液



穴から液を出す
オオボクドウの幼虫

シロスジカミキリが産卵した痕

樹液の流出にはボクトウガやカミキリムシ、スズメバチといったさまざまな昆虫が関係しています。これらの昆虫がいないと、クワガタムシ類やカブトムシも生活することができません。

コガネムシ *Mimela splendens* コガネムシ科



2003年8月25日 熊谷市広瀬 (大森生)

見られる場所

草はら

林や草はらで生活する。

食べもの

成虫はクヌギやイタドリなどの葉を食べる。卵は土の中に産みつけられ、幼虫はさまざまな植物の根を食べて育つ。



見られる時期

6~8月

体長：17~24mm



成虫

特徴

体は金緑色でつやがある。

よく似た種類



サクラコガネ

よく似た種類

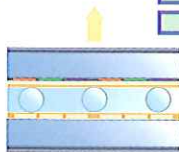
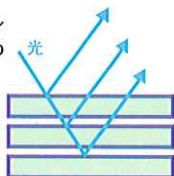


ドウガネブイブイ

荒川ではコガネムシによく似ている種類が何種類も見られます。緑銅色のサクラコガネや銅色のドウガネブイブイは植物の葉の上でよく見られます。

構造色

(右) コガネムシなどの体の表面の構造



光

(左) 液晶モニターの断面

コガネムシやヤマトタマムシの体のつやは、体の表面の細かい構造に光が反射して見える構造色と呼ばれるものです。この構造は、液晶などの最先端の技術に应用されています。

マメコガネ *Popillia japonica* コガネムシ科



体長：9～13mm

見られる時期

5～8月



成虫

特徴

体は金緑色で、
前バネが茶色。



成虫



交尾

食べもの

成虫はクヌギやイタドリ、ヤブガラシなどさまざまな植物の葉や花に集まる。卵は土の中に産みつけられ、幼虫はさまざまな植物の根を食べて育つ。



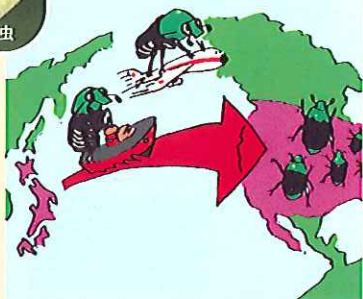
見られる場所

草はら

2003年8月4日 川島町出丸下郷

土手などの草はら
で生活する。

●ジャパニーズ・ビートル



日本からアメリカ合衆国に持ち込まれ、ダイズ畑の大害虫になったことから、アメリカでは「ジャパニーズ・ビートル」と呼ばれています。

カブトムシ *Allomyrina dichotoma* コガネムシ科



体長：32～53mm

見られる時期

6～8月



成虫♂

特徴

体は黒褐色で、オスにはつのがある。成虫は夜間に活動し、街灯などのあかりに集まる習性がある。卵は土の中に産みつけられる。



幼虫



成虫♀

食べもの

成虫はクヌギなどから出る樹液に集まる。幼虫は腐葉土を食べて育つ。



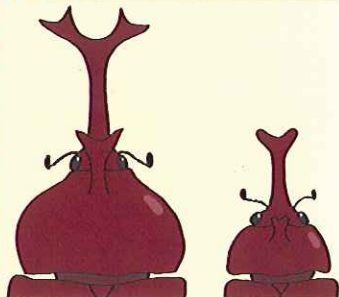
見られる場所

林

2003年8月4日 川島町出丸下郷

クヌギやヤナギ類などの生える林で生活する。

●つもの



つもの長さは、幼虫期の栄養状態によって決まります。大きなつものを持つ個体は、樹液の出ている場所をめぐる争いに強く、メスと交尾する機会も多くなります。しかし、体に傷を負うことが多く、鳥などに食べられやすいともいわれています。

ヤマトタマムシ *Chrysochroa fulgidissima* タマムシ科



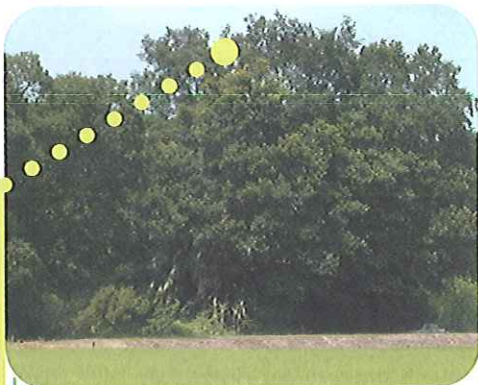
体長：25～40mm

見られる時期

7～8月



成虫



見られる場所

林

2003年8月4日 北本市荒井

エノキやケヤキの生える林で生活する。

食べもの

成虫になるとえさを食べることはない。幼虫はエノキ、ケヤキ、ハンノキなどの枯れ木にもぐりこんで材を食べて育つ。

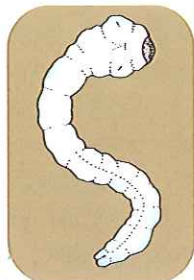
●玉虫厨子(たまむしのずし)



美しいタマムシはしばしば工芸品に用いられており、飛鳥時代につくられた奈良・法隆寺の玉虫厨子には美しい前パネがはめ込まれています。また、幸せを呼び、ダンスに入れておくと着物が増えると信じられてきました。

特徴

体は金緑色でつやがあり、前パネに赤色の線がある。高いこずえを飛び姿がよく見られ、低い場所にはあまり降りない。



幼虫

ヘイケボタル *Luciola lateralis* ホタル科



体長：7～10mm

埼玉県RDB
準絶滅危惧 (NT2)

見られる時期

6～8月



成虫

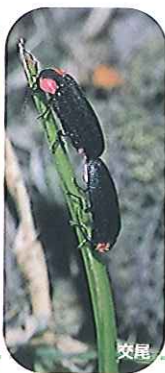
特徴

胸は赤色で黒い紋があり、前パネは黒色。



食べもの

成虫になるとえさを食べることはない。幼虫は水中でモノアラガイなどの水生の貝類を食べる。



交尾

見られる場所

水辺

2003年8月4日 さいたま市桜区塚本
成虫は湿地のヨシ原や
田んぼ・休耕田で見ら
れる。

●幼虫は水生



日本には40種以上のホタル類がありますが、そのうち幼虫期を水中で生活するのは3種類だけです。世界でも水生のホタル類は少なく、特殊なホタルといわれています。

オバボタル *Lucidina biplagiata* ホタル科



体長：7~12mm

見られる時期

6~8月



成虫

特徴

体は黒色で、胸に赤い紋がある。触角が長く幅広い。成虫は草の葉の上に止まっている姿がよく見られる。

見られる場所

草はら

2003年8月30日 北本市石戸宿

林のへりや草はらで生活する。

●オスとメスのコミュニケーション

ヘイケボタルは光を放つ。



オバボタルは触角でにおいを感じる。

ヘイケボタルは夜行性で、オスが光のサインを放つことでメスと出会い、交尾をします。オバボタルは昼行性でにおいを主な伝達手段として用います。



成虫

食べもの

幼虫は林内の落ち葉やくち木の下で陸生の貝類を食べて育つ。

ナミテントウ *Harmonia axyridis* テントウムシ科



体長：5～8mm

見られる時期

4～11月



成虫



交尾

特徴

前ハネの色や斑紋には変化がある。さまざまな植物の上で見られる。



成虫



卵



幼虫



さなぎ

見られる場所

草はら

2003年8月4日 上尾市平方

草はらや林で生活する。

● 個体変異



二紋型



四紋型



まだら型



紅紋型

前ハネの色や斑紋には変化があり、黒色のハネに赤色の紋が2個ある二紋型、4個ある四紋型、12個あるまだら型、赤色のハネに黒色の紋がある紅紋型に分けられます。

食べもの

成虫、幼虫ともにアブラムシ類などをつかまえる。1世代で5,000個体以上のアブラムシ類を食べるといわれている。

ナナホシテントウ *Coccinella septempunctata* テントウムシ科



体長：5～9mm

見られる時期
4～11月



見られる場所 2003年5月25日 川島町出丸下郷
草は5 ノイバラなどの生える草は
らで生活する。



成虫

特徴

前パネはだいたい色で、7個の黒色の紋がある。



幼虫



さなぎ



脱皮した幼虫

食べもの

成虫、幼虫ともにアブラムシ類などをつかまえる。

●大集団



ナナホシテントウやナミテントウの成虫は集団で樹洞や樹皮の下で冬越しをします。条件がよいと、集団は100個体以上の大きなものになります。

ヒメカメノコテントウ *Propylea japonica* テントウムシ科



体長：3～5mm

見られる時期

4～10月



見られる場所
草はら

2003年9月27日 北本市石戸宿

ヨモギなどの生える草
はらで生活する。



成虫

特徴

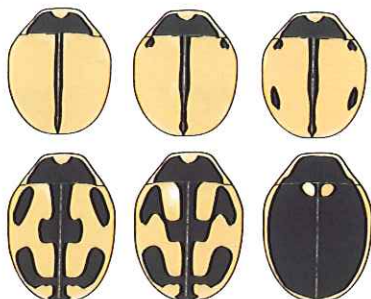
前バネの色や斑紋には変化がある。



アブラムシを食べる成虫。

食べもの

成虫、幼虫ともにアブラムシ類な
どをつかまえる。



模様にはさまざまなパターンがある。

●天道虫

テントウは、お天道様の「天道」で、太陽の意味です。指に止まらせると太陽の方へ向かっていくことから「太陽の虫」すなわち「天道虫」の名がついたといわれています。

マウガタテントウ *Coccinula crotchli* テントウムシ科



体長：3～4mm

見られる時期

4～10月



成虫

特徴

前パネは黒色で、だいたい色の紋がある。



花粉を食べる成虫。

食べもの

成虫、幼虫ともにアブラムシ類などをつかまえる。成虫はカワラサイコなどの植物の花粉も食べる。



見られる場所

草はら

2003年6月28日 熊谷市広瀬(大府生)

カワラサイコなどの生える草はらでよく見られる。

●「おいしくないよ！」信号



テントウムシ類は、身の危険を感じたとき黄色の液体を出します。これは防御物質といわれています。目立つ色合いは、捕食者に対して「食べてもまずい」という信号になっています。

ジュウサンホシテントウ *Hippodamia tredecimpunctata* テントウムシ科



体長：5～7mm

見られる時期
5～10月



成虫

特徴

前バネはだいたい色で、13個の黒色の紋がある。湿地に特有な種類。



成虫



えさとなるコフキアブラムシの一種。

食べもの

成虫、幼虫ともにヨシの葉についたアブラムシ類をつかまえる。



見られる場所
草はら

2003年6月3日 川島町出丸下郷

ヨシ原などの湿地で生活する。

●星の散

テントウムシ類には、円形の紋の散（星の散）が名についた種類が多く、フタホシテントウ、ジュウクホシテントウ、ニジュウヤホシテントウなどがいます。



ジュウクホシテントウ



ニジュウヤホシテントウ



フタホシテントウ



ジュウサンホシテントウ

オオニジュウヤホシテントウ

Epilachna vigintioctomaculata
テントウムシ科



体長：7～8mm

見られる時期

5～9月



成虫

特徴

前バネは赤褐色で、28個の黒色の紋がある。



卵



幼虫

よく似る種類



トホシテントウ

よく似ているトホシテントウは10個の黒色の紋があり、カラスウリなどの葉を食べます。



見られる場所

草はら

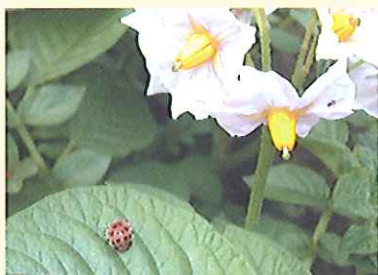
2003年5月25日 川島町出九下郷

ジャガイモ畑やクコの生える草はらで生活する。

食べもの

成虫、幼虫ともにクコや栽培植物のジャガイモなどの葉を食べる。

●ベジタリアン



テントウムシ類の多くは、アブラムシ類などを食べる肉食で、植物食の種類や、植物の葉に寄生するカビ類などを食べる菌食の種類は少数です。

マメハンミョウ *Epicauta gorhami* ツチハンミョウ科



体長：12～18mm

見られる時期

6～9月



2003年9月23日 川島町出丸本

見られる場所

草はら

土手などの草はらや畑で生活する。



成虫

特徴

体は頭が赤色で、前バネは黒色に白色の線がある。成虫はせまい範囲にたくさんいることが多く、よく目立つ。



メスはイナゴ類やバッタ類の卵を探し、産卵する。



集団でいるとよく目立つ。

食べもの

成虫はクサネムやダイズなどの葉を食べる植物食だが、幼虫はイナゴ類やバッタ類の卵を食べる動物食。

●カンタリジン

成虫の血液にはカンタリジンという毒が含まれています。成虫を乾燥させて粉にすると、その重さの15%がカンタリジンです。成虫の散個体分の粉は、人が死んでしまう量だといわれています。

ヒメヒロウドカミキリ *Acalolepta degener* カミキリムシ科



9mm~14mm

環境省レッドリスト
情報不足(DD)

埼玉県RDB
準絶滅危惧 (NT1)

見られる時期

6~7月



見られる場所

草はら

2003年6月28日

オトコヨモギの生える草は
らで生活する。

食べもの

成虫、幼虫ともにオトコヨモギを
えさとしている。

特徴

体は茶褐色で、灰色の毛が生えてい
る。全国的に減っている希少な種。



交尾



そのくらしぶりが
まだよくわかって
いない虫なんだよ。

●砂れきの草はら

ヒメヒロウドカミキリ、ミヤマシ
ジミ (149頁)、シロヘリツチカメ
ムシ (241頁) など荒川中流の砂れ
きの草はらに特有な昆虫は、生活環
境の悪化により減っています。

キボシカミキリ *Psacothea hilaris* カミキリムシ科



体長：15～30mm

見られる時期

6～11月



成虫

見られる場所

林

2003年8月4日 川島町出丸中郷

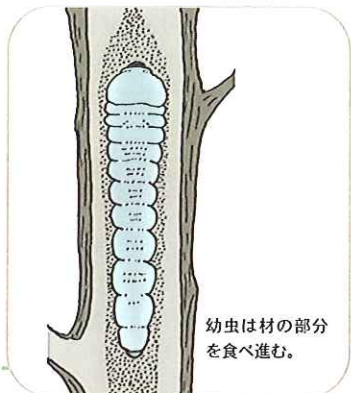
クワなどの生える林で生活する。

食べもの

成虫はクワなどの生木の樹皮や葉を食べる。幼虫は材を食べ、樹木を枯らせることもある。

特徴

体は黒色で黄色の斑紋がある。メスはクワなどの幹に小さい円形の傷をつけて卵を産む。



幼虫は材の部分を食べ進む。

●長い触角



カミキリムシ類の特徴は、長い触角です。オスは交尾をするときに、長い触角でメスの体に触れて、同種のメスであることを確認します。

クワカミキリ *Apriona japonica* カミキリムシ科



体長：35～45mm

見られる時期

6～8月



見られる場所

林

2003年8月23日 北本市石戸宿

クワやヤナギ類の生える林で生活する。

成虫

特徴

体は黒色で、灰色がかった黄褐色の毛におおわれる。成虫は夜間に活動し、街灯などのあかりに集まる習性がある。

食べもの

成虫はクワ、ヤナギ類などの生木の樹皮や葉を食べる。幼虫はクワなどの材を食べて育つ。幼虫が卵から成虫になるまで2、3年かかる。



大アゴは、人の髪の毛が切れるほどするといんだよ。

●発音

カミキリムシ類には、胸にヤスリ状の発音版をもち、前後に動かして「チィ、チィ」と発音する種類がいます。

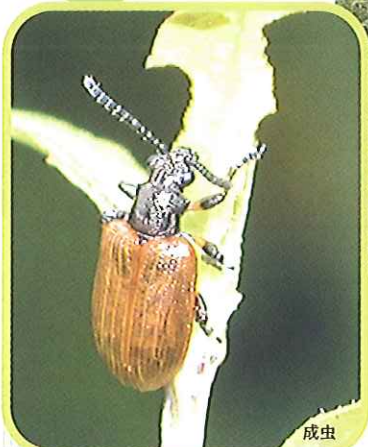
トホシクビボソハムシ *Lema decempunctata* ハムシ科



体長：5～6mm

見られる時期

3～11月



成虫

特徴

体は頭と胸が黒色、前バネは茶色。前バネに10個の黒色の紋がある個体とない個体がある。



交尾

食べもの

成虫、幼虫ともにクコの葉だけを食べる。



見られる場所

草はら

2003年6月3日 川島町出丸下郷

クコの生える草はらで生活する。

●ふんを利用



鳥などから逃れるために、幼虫はふんや粘液を背中に背負い、自分の姿をカモフラージュして生活します。

コガタリハムシ *Gastrophysa atrocyanea* ハムシ科



体長：5～6mm

見られる時期

3～7月



成虫

特徴

体は黒青色。幼虫は、20日くらいで土の中にもぐってさなぎになる。その後、約1週間で羽化した成虫は、そのまま翌年の春まで土の中で過ごす。



卵



幼虫



成虫

食べもの

成虫、幼虫ともにギシギシやスイバなどの葉を食べる。



見られる場所

草はら

2003年5月6日 川島町出丸下郷

ギシギシなどの生える草はらで生活する。



●成虫になるのは3%

産卵時期のメスは、腹がバンバンにふくれるほど卵をもっています。しかしそれほど多くの卵が産みつけられても、卵から成虫になれるのは3%ほどといわれています。

クロウリハムシ *Aulacophora nigripennis* ハムシ科



体長：6mm前後

見られる時期

4～11月



成虫

特徴

体は頭と胸がだいたい色、前パネは黒色。

見られる場所

草はら

2003年8月23日 北本市石戸宿

草はらや林のへりで生活する。



食べもの

成虫はカラスウリ、アマチャヅル、エノキなどさまざまな植物の葉、花、花粉を食べる。幼虫は土の中で植物の根を食べる。

よく似た種類



ウリハムシ

よく似ているウリハムシは頭も胸も前パネもだいたい色です。

●擬死（ぎし）

ハムシ類は植物の葉の上でよく見られます。ハムシ類の成虫は危険を感じると、天敵から逃れるために足を縮めて地面に落ちて死んだふりをする習性（擬死）があります。

ブタクサハムシ *Ophraella communa* ハムシ科



体長：4mm～5mm

見られる時期

4～11月



見られる場所

草はら

2003年6月3日 川島町出九下郷

オオブタクサなどの生える
草はらで生活する。



成虫

特徴

体はうす茶色で、黒い模様がある。
成虫は活発に飛ぶので、移動能力
が比較的高いといわれている。

食へもの

成虫、幼虫ともにブタクサ、オオブ
タクサなどの葉を食べる。

昆虫・クモ類



幼虫



さなぎ 幼虫はさなぎにな
るときにまゆをつくる。

●外来種



人によって本来分布していない地
域へ運ばれた生きものを外来種
(291頁) といいます。ブタクサハ
ムシは北アメリカ原産の外来種で
す。1996年以降、急速に国内で
の分布を広げました。輸入品の入れ
ものや干し草にまぎれて持ち込まれ
た可能性が指摘されています。



荒川でも1996
年ごろから見つ
かっているんだ。

ジンガサハムシ *Aspidomorpha indica* ハムシ科



体長：7～9mm

見られる時期

4～9月



交尾

特徴

体は黄褐色でつやがある。



産卵

幼虫は脱皮殻で体をおおう。



食べもの

成虫、幼虫ともにヒルガオやコヒルガオの葉を食べる。

2003年5月25日 川島町松永

見られる場所

草はら

ヒルガオやコヒルガオの生える草丈の低い草はらで生活する。

体の形が、戦国時代の武士ががぶった陣笠（じんがさ）に似ているので「ジンガサ」と名がついているよ。

陣笠



●金色の輝き

成虫は生きているときには金色に輝いていますが、死んでしまうとその輝きは失われてしまいます。

カメノコハムシ *Cassida nebulosa* ハムシ科



体長：6～7mm

見られる時期

4～9月



成虫

特徴

体は淡い褐色で、前バネに黒色の紋がある。



交尾

食べもの

成虫、幼虫ともにアカザ、シロザなどの葉を食べる。



見られる場所

草はら

2003年8月4日 川島町東野

アカザ、シロザなどの生える草丈の低い草はらで生活する。

●脱いだ皮を使う



鳥などから身を守るため、カメノコハムシやジンガサハムシの幼虫は自分の脱皮殻で体をおおって生活します。危険を感じるとこれを前後に動かして敵をおどがします。

ヒメクロオトシブミ

Apoderus(Compsapoderus) erythrogaster
オトシブミ科



体長：4～6mm

見られる時期

4～6月



見られる場所

林

2003年5月25日 川島町出丸下郷

林のへりや草はらで生活する。



交尾



成虫

特徴

体は黒色。成虫はクヌギやコナラ、ノイバラなどさまざまな植物の葉を巻いてゆりかごをつくる。

食べもの

幼虫はゆりかごの中で葉を食べて育つ。



ゆりかごの形が、昔の手紙（巻紙）みたいだから「オトシブミ」っていうんだよ。

●ゆりかごづくり

ゆりかごをつくるのはメスで、葉を口で切り、足で折り曲げてつくります。1つのゆりかごに1つ卵を産みつけます。幼虫、さなぎの期間をゆりかごの中で生活し、成虫になると外へ出てきます。



葉に切りこみを入れて…



折り目を入れながらキチッと葉を巻いてゆく。



完成！



ハスジカツオゾウムシ *Lixus acutipennis* ソウムシ科



体長：9～14mm

見られる時期

5～8月



成虫

特徴

体は茶褐色で、灰色の模様が
ある。



見られる場所

草はら

2003年5月25日 川島町松永

アザミ類やヨモギなどの生
える草はらで生活する。



交尾

食べもの

成虫はヨモギなどの植物の葉を
食べる。幼虫はヨモギなどの茎
の芯を食べて育ち、茎の中でさ
なぎになる。

よく似た種類



カツオゾウムシ

よく似ている
カツオゾウム
シは赤茶色で、
イタドリなどの
植物の葉を
食べます。

● 幼虫



口がゾウの鼻のようなので「ゾウムシ」
との名がついています。この口は、幼虫
のえさとなる植物の茎や葉に、卵を産む
ための穴を掘る道具として使われます。

オジロアシナガゾウムシ *Mesalcidodes trifidus* ゾウムシ科



体長：9～10mm

見られる時期

4～8月



2003年6月28日 熊谷市広瀬(大麻生)

見られる場所

草はら

クズなどの生える草
はらで生活する。



成虫

特徴

黒色の体に白色の模様があり、草の上に止まっているとまるで鳥のふんのように見える。



まるで鳥のふん。

食べもの

成虫はクズなどの植物の葉を食べる。幼虫はクズの茎の芯を食べて育ち、茎の中でさなぎになる。

●虫こぶ



メスは、クズの茎にらせん状の傷をつけながら卵を産みます。産みつけられた茎の部分は幼虫が成長するにつれてふくらみ、虫こぶになります。1つの虫こぶに1～6個体の幼虫がいます。

コガネグモ *Argiope amoena* コガネグモ科



♀：20～25mm
♂：5～7mm

埼玉県RDB
絶滅危惧IB類

見られる時期
6～8月



見られる場所

草はら

2003年7月23日 北本市荒井

河川敷の丈の高い草はらや畑のまわりで生活する。



県内では著しく
数が減っていて、
絶滅の危機にひ
んしているんだ。

特徴

大型のクモ。メスの腹は黒褐色と淡い黄色のしま模様。オスは全体が茶褐色でメスより小さい。円形のあみをはる。似た種類のナガコガネグモ (279頁) よりも早い時期に発生する。



成体♂

食べもの
昆虫類をつかまえて食べる。

●クモの糸にも種類がある



クモのあみは、ねばる糸とねばらない糸でできています。あみをはるにはたくさんの養分が必要なので、あみをこわされたクモは死んでしまうこともあります。

ナガコガネグモ *Argiope bruennichi* コガネグモ科



♀：20～25mm
♂：6～10mm

見られる時期

8～11月



成体♀

特徴

大型のクモ。荒川河川敷では真夏に草はらでよく見られる。円形のあみををはる。大きさはコガネグモ（278頁）と同じくらいだが、ナガコガネグモのほうが、腹のしま模様が細かい。コガネグモより発生時期が遅い。

食べもの

昆虫類をつかまえて食べる。



見られる場所

草はら

2003年9月22日 上尾市平方

農地のまわりの明るい草はらや、丈の高い草はら～丈の低い草はらで生活する。

● 忍法「がくれ帯」



チュウガタコガネグモ

コガネグモやナガコガネグモのあみのまん中には、よくX字型の白い部分があります。これを「がくれ帯」といいます。がくれ帯は、紫外線を反射してえさとなる昆虫をさそうはたらきがあるといわれています。

トヨオニグモ *Neoscona adianta* コガネグモ科



♀：8～10mm
♂：5～7mm

見られる時期
6～7月
9～10月



見られる場所

草はら

2003年5月27日 川島町出丸中郷

田んぼや河川敷の草はらで生活する。



成体♀

特徴

小型のクモ。腹は黄緑色の地に三角形の白色の斑がならぶ。個体数は多いが小さいので目につきにくい。年に2回発生する。田んぼの害虫の天敵として重要な種類。

食べもの

昆虫類をつかまえて食べる。



荒川で最もよく見られるクモだよ。体をよく見てみて！ とてもきれいな模様をしているよ。

●クモガイネを守る



田んぼにくらすクモ（トヨオニグモなど）は、ウンカやヨコバイといったイネの害虫を10アールあたり1日に10万～20万匹もつかまえて食べるといいます。米づくりをする上で、害虫を退治してくれるクモですが、農薬をまくと、そんなクモまで殺してしまいます。

オオトリノフンダマシ *Cyrtarachne inaequalis* コガネグモ科



♀：10～13mm
♂：2.0～2.5mm

埼玉県RDB
準絶滅危惧(NT2)

見られる時期
7～9月



その名のおり、じっとしていると鳥のふんそっくり！



成体♀

特徴

腹はうす茶色。腹の形は逆三角形で左右にうず巻き状の模様がある。夕方から夜間にかけて活動し、円形のあみをはる。昼間は葉の裏でじっとしている。荒川河川敷ではクワなどが生える場所で見られる。

よく似た種類



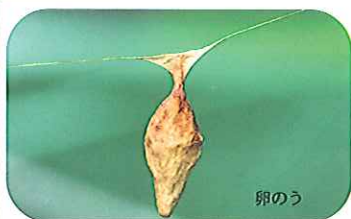
トリノフンダマシ

荒川河川敷には、よく似た種類のトリノフンダマシやシロオビトリノフンダマシがいます。

見られる場所
林

2003年6月27日 川島町出丸中野
林のへりや丈の高い草はらで生活する。

食べもの
昆虫類をつかまえて食べる。



卵のう

●クモの子を散らす

クモはたくさんの卵を糸でつんで卵のうをつくりまします。ふ化すると卵のうからたくさんの小さなクモが出てきて散らばります。この様子をさして「クモの子を散らすよう」といいます。

ジョロウグモ *Nephila clavata* コガネグモ科



♀：20～27mm
♂：6～8mm

見られる時期
9～11月



見られる場所
林

2003年10月3日 川島町丸中郷
うす暗い林の中や林
のへりて生活する。

食べもの
昆虫類をつかまえて食べる。



成体♀

特徴

大型のクモ。秋に成体になる。腹は灰白色・黄色のしま模様と赤色が目立つ。林で円形のあみををはる。木の幹などに卵のうをつくる。卵塊はピンク色で白い糸におあわれる。巣のまん中にいる大きくてきれいな模様のクモがメス、巣のはしにいたる小さなクモがオス。オスは1～複数個体いる。コガネグモやナガコガネグモより目につく時期が遅い。



ジョロウグモの糸はセミとりに使えるよ！

●雷を持つクモ



日本にすむ毒グモ、カバキコマチグモ。

日本にすむクモのほとんどは上あごの牙から毒を出します。ただしこれは獲物を弱らせるためのもので人に対し致命的となる毒ではありません。在来種で最も毒性の強い種類はカバキコマチグモです。かまれると激しく痛みます。オギなどの葉を巻いて巣をつくります。荒川河川敷でも見られます。

ハナグモ *Misumenops tricuspidatus* カニグモ科



♀ : 6mm
♂ : 3~4mm

見られる時期

6~7月

9~10月



見られる場所

草はら

2003年5月13日 北本市荒井

丈の低い草はらで生活する。

特徴

体は緑色。葉や花の上、花かげなどで前足を広げて獲物を待っている。メスの腹の模様は個体によってちがう。



成体♂

食べもの
昆虫類をつかまえて食べる。

よく似た種類



ワカバグモ成体♀

よく似ている
ワカバグモは、
腹が細く、体
全体が緑色。

クモいろいろ



ゴミグモ



カラスハエトリ



アオオビハエトリ



ネコハエトリ

(上3点) 巣をつくらない
ハエトリグモ類

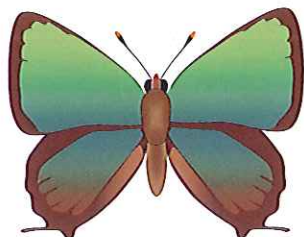
日本産のクモ類は1,000種類以上知られています。荒川流域でも約100種類見つかっています。

埼玉県のチョウ、ミドリシジミ



ミドリシジミ(152頁)
は荒川、そして埼玉県
を代表するチョウだよ。

かつて埼玉県の低地部には湿地が多く、ハン
ノキ林も多かったといわれています。ミドリシ
ジミは、そんな埼玉県の原風景を代表するチョ
ウです。しがし、開発などによりミドリシジミ
の生活場所は年々失われ、数は減ってきてい
ます。

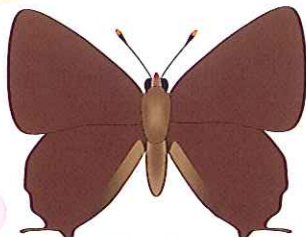


オス

夕方に活発に活動する。オスはな
わばりをはり、近くに別のオスが
飛んでくると激しく追う。



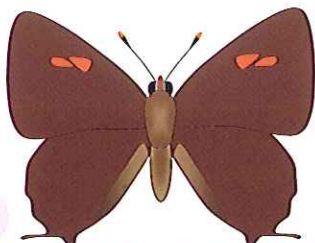
ミドリシジミのメスには
多くの型があるよ。



メス

O型

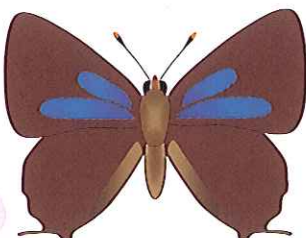
前ハネ表面は無紋。



メス

A型

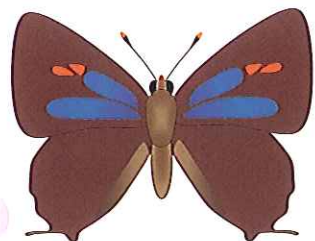
前ハネ表面はだいたい色の斑紋
がある。



メス

B型

前ハネ表面は青色の斑紋がある。



メス

AB型

前ハネ表面はだいたい色と青色
両方の斑紋がある。

冬のゴマダラチョウ・オオムラサキの幼虫

ゴマダラチョウとがつつて秋ヶ瀬公園
など荒川本川でも見られたオオムラサ
キは、幼虫の姿がよく似ています。ど
ちらも幼虫はエノキの葉を食べて育
ち、秋になると木から下りて落ち葉の
裏側で冬を越します。



昔みだいに、ゴマダラ
チョウとオオムラサキ
がいっしょにいる姿が
荒川で見られるよう
になるといいね。



オオムラサキ

(12・155頁)

幼虫：背中に4対の突起がある。

冬、エノキの葉の
裏側で見られる。

幼虫はエノキの葉を食べてい
る時には緑色だけれど、冬越
しの時には茶色になるよ。



冬越しまでの間に、ゴマダラチョウの
幼虫は、オオムラサキの幼虫よりもは
やく成長します。ですから冬の間に
見られる幼虫は、ゴマダラチョウの方が
大きいです。

ゴマダラチョウ

(155頁)

幼虫：背中に3対の突起がある。



●似ている種類を見分けよう！ スズメバチ類の見分け方



荒川では5種類のスズメバチ類がよく見られるよ。



スズメバチに出会ったら…

スズメバチも、生きもののつながりのなかで重要な役割を果たしています。むやみに巣を取りのぞいたりせず、こちらから近づかないようにしましょう。ハチは巣を守るために刺すことがほとんどです。もしスズメバチに出会ったら、静かに巣からはなれてください。(198頁)

キロスズメバチ

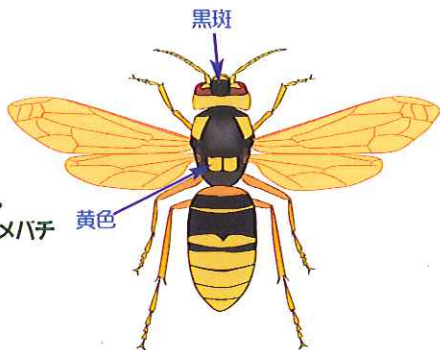
(199頁)

体長：17～28mm

特徴：頭に黒色の斑がある。

胸の後ろの部分が黄色。

体は小さいがオオスズメバチの次に攻撃的な性質。



モンスズメバチ

(197頁)

体長：21～29mm

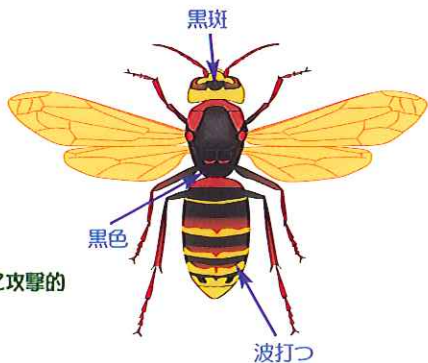
特徴：頭に黒色の斑がある。

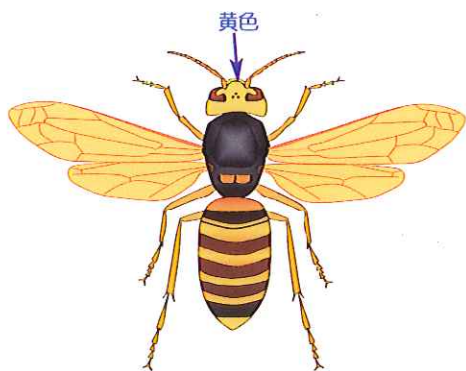
胸の後ろの部分が黒色。

腹の黒色の帯が波打つ。

夜に活動する。

キロスズメバチの次に攻撃的な性質。





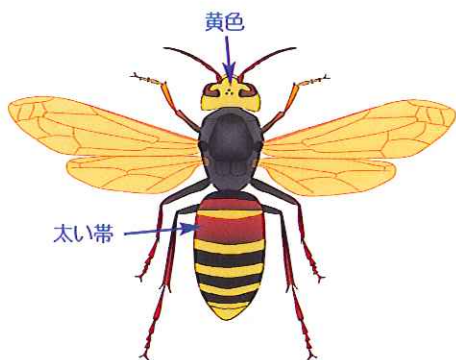
オオスズメバチ

(198頁)

体長：27～44mm

(最も大きい)

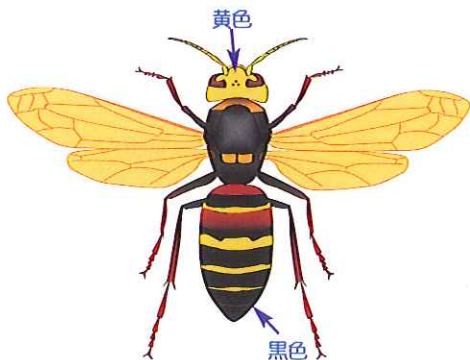
特徴：頭は黄色、
腹はだいたい色で
黒色の帯がある。
最も攻撃的な性質。



コガタスズメバチ

体長：22～29mm

特徴：頭は黄色、
腹は黄色で黒褐色の
太い帯がある。
比較のおだやかな性質。
生け垣などに巣をつくる。



ヒメスズメバチ

体長：25～36mm

(オオスズメバチの次に
大きい)

特徴：頭は黄色、
腹の先が黒色。
最もおだやかな性質。

●似ている種類を見分けよう！ カマキリ類の見分け方



荒川でよく見られる
4種類のカマキリを
見分けてみよう！

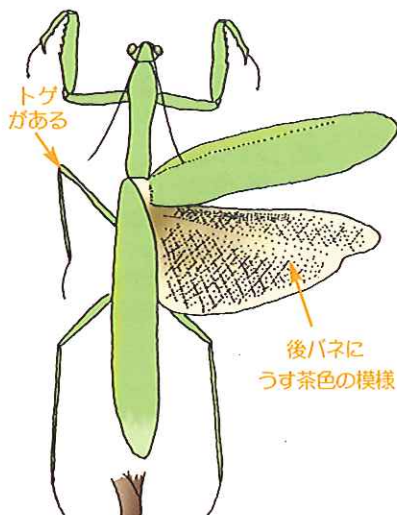
オオカマキリ (232頁)

体長：75～90mm

特徴：カマのつけ根の部分が黄色い。

足にトゲがある。後バネにうす茶色の模様がある。

生活場所：林のへりの草はらで生活する。



卵：球形に近い。
木の枝や草の茎
に産みつけられる。



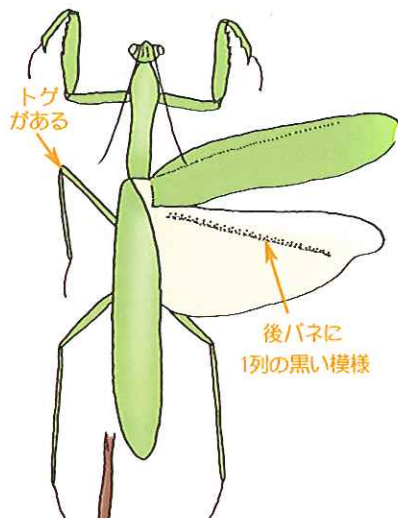
チョウセンカマキリ (231頁)

体長：75～90mm

特徴：カマのつけ根の部分がだいたい色。

足にトゲがある。後バネに1列の黒い模様がある。

生活場所：開けた草はらや田んぼで生活する。



卵：細長い。
草の茎などに産
みつけられる。



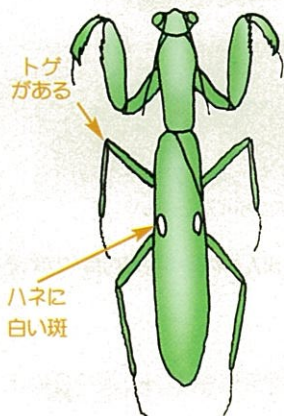
ハラビロカマキリ (228頁)

体長：50～70mm

特徴：カマの幅が広い。

足にトゲがある。ハネに白い斑がある。

生活場所：林の樹上や林のへりの草はらで生活する。



卵：丸い。
木の幹や枝に産みつけられる。

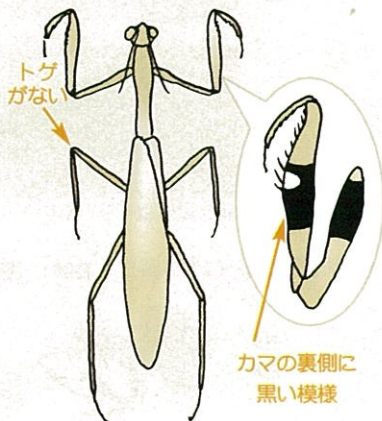
コカマキリ (230頁)

体長：45～60mm

特徴：カマの裏側に黒い模様がある。

足にトゲはない。

生活場所：草はらの地表で生活する。



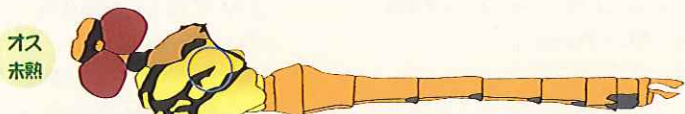
卵：細長い。
石の下などに産みつけられる。

●似ている種類を見分けよう！アキアカネ・ナツアカネの見分け方



アキアカネとナツアカネは模様や色にちがいがあるよ。よく見てみてね！

アキアカネ (188頁) 特徴：【胸の黒い模様】まん中の線が先が細くなる。



オス



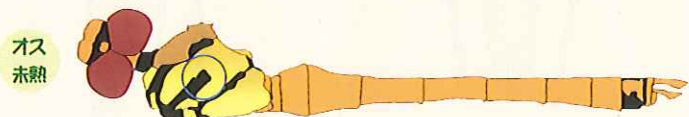
胸と顔は赤くならない

メス



体は赤くならない

ナツアカネ (187頁) 特徴：【胸の黒い模様】まん中の線が四角く切れる。



オス



全身が赤くなる

メス



胸と顔は赤くならない